

モンゴル国ズーンバヤン地区住民によるアセスメント： 災害や緊急事態発生の可能性と対応能力

Assessment of the likelihood, vulnerability, and capacity to disasters/emergency by the community people of Zuunbayan, Dornogobi, Mongolia

○山田智恵里¹, Bolormaa Tsendendamba², Amarbileg Shajbalidir³, 末永カツ子¹, 堀内輝子¹, Enkhtuya Palam⁴
Chieri Yamada, Bolormaa Tsendendamba, Amarbilig Shajbalidir, Katsuko Suenaga, Teruko Horiuchi, Enkhtuya Palam
1 福島県立医科大学, 2 モンゴル国ドルノゴビ県保健局, 3 モンゴル国ドルノゴビ県環境モニタリング局,
4 モンゴル国立公衆衛生センター

1 Fukushima Medical University, 2 Department of health, Dornogobi, Mongolia, 3 Department of Hydrant, Meteorology, and Environmental Monitoring, Dornogobi, Mongolia, 4 National Center for Public Health, Mongolia

【はじめに】

研究グループはモンゴルのドルノゴビ県ズーンバヤン地区(以下 ZB, ウラン鉱床近郊)で被ばくと健康に関する住民主体型活動を推進するアクションリサーチを 2017 年より継続している。調査により被ばくの可能性は現在高くないことが明らかになった。2019 年に地区全体の災害・緊急事態の発生可能性とその対応能力を住民がアセスメントする活動を行った。当研究は福島県立医科大学研究倫理審査委員会の承認(番号: 2189)を得ており大学の研究費で実施し利益相反はない。

【方法】

1. 研究グループは地域の対応能力をアセスメントする既存方法を検討し ZB に適したツールを決定する。
2. ワーキンググループ (WG) は研究者グループと 1. のツールを用いて全項目をアセスメントする。
3. 2. の結果を研究者グループで検討し、全体像を評価し次の活動を策定する。

【結果】

幾つかのアセスメント方法を検討し、地域住民に適応でき簡便で評価しやすい Conjoint Community Resiliency Assessment Measure を主として用いることとし作成者の許可を得た (Leykin, D, 2013)。これに元に ZB に適合するよう若干修正し、過去 10 年間の災害・緊急事態発生と社会的インパクト (0-1.0 で度合いを設定)、今後 10 年で起こりうる災害・緊急事態を予測し同様にそのインパクトをアセスメントする項目も加え、人口統計、要援護者、物理的脆弱性、医療体制と公的対応力、インフラの状況など計 12 項目を設定した。

災害・緊急事態の過去の発生実態と将来の予想とそのインパクト (抜粋) は表 1 の通りであった。ほかアセスメント結果は、人口 1,536 人の半分が 20 歳未満、65 歳以上は 65 人 (4.3%)、障害者は 22 人 (1.4%) でいずれも独居者はいない。人口の 5% が牧畜者で他はほぼ給与所得者である。緊急時対応責任者は地区長で実動は隣接する陸軍基地が担う、これは住民全員が知っている。携帯電話が広く利用されているが緊急連絡網なく地区役場他無線機器は所有せず。地区内避難場所は指定されているが食料等の備蓄なし、地区外への避難場所は県が指定している。地区の避難訓練は数年前より年 1 回役場が主催し公的機関関係者のみ参加、救急医療は地区病院が担当 (医師 3 名看護師他職員約 20 名)、日常貯水池より発電機で各戸へ配水、各戸では少々食糧備蓄ありなどが把握された。

表 1 ZB における災害・緊急事態の発生とインパクト(抜粋)

項目	過去 10 年発生実態 (影響度合)	今後 10 年の発生予想 (影響度合)
日照り	2018 年 3 カ月 (10 家族で 100 頭家畜死亡) (軽度)	乾燥化進み発生の可能性は高い (中等度)
感染症 (人)	2016 年 3 月麻疹(小児 13 人と成人), 2011 年 A 型肝炎(小児 34 人) (軽度)	予防接種事業が進んでいるため発生は減少と予測 (軽度)
感染症 (人畜共通)	2015 年ラクダ 19 頭, 2017 年羊 300 頭, 2018 年羊 100 頭 (中等度)	発生可能性高く地域として活動制限がかけられる (重度)

【まとめ】

ZB は自然災害発生の少ない地域であり、緊急事態として人畜共通感染症が最も起こり得、かつ影響が大きいと評価された。この感染症が発生すると地区全体の人と家畜の移動が制限され、出入りする車両は消毒剤を噴霧されその料金を支払わなければならない。いまだ人の健康上の被害は出ていないが十分留意する必要があると WG でも役所、病院でも再認識された。

日照り、人畜共通感染症で最も被害があるのは人口数として少ない牧畜者であると判明した。彼らは地理的に地区中央から離れているために日常的に多様な情報が伝達されにくい状況にあるため、牧畜家族への支援を強化することが必要である。

調査で明らかになった弱点への対応を徐々に進めている。WG では災害時要援護者である人々の所在把握と直接の支援者の確保、住民連絡網の作成開始、避難訓練への一般住民参加促進などの活動を実施中である。

【引用文献】

Dmitry Leykin, Mooli Lahad, Odeya Cohen, et.al. Conjoint Community Resilience Assessment Measure-28/10 items (CCRAM28 and CCRAM10): A Self-report Tool for Assessing Community Resilience. (2013). Am J Community Psychol; 52: 313.323